

令和8年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 13	公益目的事業 19
主査名	水谷 淳 明治大学准教授 高橋愛典 近畿大学教授	
研究テーマ	労働力不足下における持続可能な輸送システムの構築と交通政策	
<p>政府の働き方改革に伴って、2024年4月から自動車運転者の時間外労働時間の上限が960時間に規制され、トラック・バスドライバー不足が懸念される、いわゆる「2024年問題」が大きな社会問題となった。交通は労働集約的な産業であり、労働力確保の問題は古くから認識されて来たが、労働力不足の深刻化によって、近年では利用者が認識できる輸送のサービスレベル低下として顕在化している。例えば、宅配便で翌日配達から翌々日配達となるエリアが拡大したり、再配達の受付時間が繰り上げられたり、バスについても運行頻度削減や最終便の繰り上げなどが実施された。また労働力不足問題は、他の交通産業（鉄道・海運・航空）においても同様に生じている。そして、少子高齢化による生産年齢人口の減少に伴って、今後さらなる労働力不足が予想される。</p> <p>本研究プロジェクトでは、このような労働力不足など、輸送サービスの生産面・需要面における社会経済的状況の変化に対応出来る（built-inされた）持続可能な輸送システムは、どのようなものを考察していきたい。</p> <p>労働力不足への対応策として、より具体的には以下のような施策を考えている。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 労働力の増加・確保 ドライバー数の増加・確保（賃金アップ・労働環境改善・リクルーティング・運転免許制度） 既存ドライバーの効率的配置2) 輸送の効率化 共同配送・ロードファクターの向上 ネットワークの見直し3) モーダルシフト 貨客混載 需要に合わせたモード（オンデマンドバス等）4) サービスレベルの見直し どこまで利用者が許容するか？		